

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
長岡市	長岡川東地区（長岡、栖吉、富曾亀、山本、新組、黒条、宮内、太田、十日町、六日市町）	令和3年3月29日	令和3年3月29日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	3,891.48ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	2,606.43ha
③地区内における65才以上の農業者の耕作面積の合計	1,182.48ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	786.97ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	68.06ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	910.00ha
(備考)	

※1④の数値については、アンケート結果に基づく今後の規模拡大面積の合計

2 対象地区の課題

今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積が、65才以上で後継者未定の農業者の耕作面積よりも多いが、地区によって差があり、後継者不足も課題である。

小規模農家も多数いる中で、機械整備やその他の支援策・補助事業等がこうした小規模農家には十分ではなく、地域を守る担い手を苦しめている。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

宮内：認定農業者間で農地を交換し、効率よく稲作を行うことで受入れ促進を図る。認定新規就農者の受け入れ促進や新規法人設立をすることで受け皿確保を目指す。

六日市町・十日町：担い手への集積率は、約67%と他集落に比較して進んでいるため、今後も中心経営体となる担い手が中心となって集積を進める。

長岡：中心経営体である認定農業者等が、リタイヤ農家の農地を集約する。

栖吉：大規模経営体を中心となって担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応。また、集落全体の農地を管理する体制づくりを進める。

富曾亀：農地利用集積組合を設立し、JAと連携して円滑な農地集積を促進する。

山本：近隣の大規模農家や、既存の集落営農組織を法人化させ、農地を集約化する。園芸においては、積極的に取組む認定農業者に集積する。

新組：中心経営体である集落営農組織や認定農業者が担っていくが、後継者が少ないことから、新規就農者の確保や、集落営農組織の法人化を促進させていく必要あり。

黒条：基盤整備事業を契機に、法人化や農地集積等の検討を進める。

太田：現状の担い手が農地を守っていく。

注1：中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成すること

を想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。